

第4段階 ガリラヤの大宣教 の宣教における第二の過越祭

3. イエスは裁き主であり、永遠の命を与える者である

ディリージーザスニュース #062

ペーステキスト: ヨハネ5.21-30 (並行テキスト : なし)

21父が死人をよみがえらせて永遠の命をお与えになるように、子もまた、御心にかなう者に永遠の命をお与えます。22父はだれをも裁かず、すべてのさばきを子にゆだねられました。23それは、すべての人が父を敬うように、子をも敬うようになるためです。子を敬わない者は、子をつかわされた父をも敬いません。

24よくよくあなたがたに告げます。わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は永遠の命を持ち、また裁かされることもなく、死から命へと確実に移っているのです。

25よくよくあなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今来ています。26父がご自分のうちに永遠の命を持っておられるように、子にも、自分のうちに永遠の命を持つことをお許しになりました。27そして、子は人の子であるので、子に裁きを行なう権威をお与えになりました。

28」このことに驚くのはやめなさい。墓の中にいる者がみな、彼の声を聞く時が来ます。29そして、善を行なった者は永遠の命を得るためによみがえり、悪を行なった者は裁きを受けるためによみがえるのです。」

30」わたしは自分からは何事もすることができます。わたしは聞くとおりに裁くだけです。わたしの裁きは正しいです。わたしは常に自分の満足を求めず、わたしを遣わした方の満足を求めているからです。

」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT} 、マーク =^M 、ルーカ =^L 、ヨハネ =^J 、使徒行伝 =^A 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレムの神殿の庭
タイムライン	西暦31年4月初旬 (第15月)
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	の宣教における2回目の過越祭
タイトル	3. イエスは裁き主であり、永遠の命を与える者であると主張する

第4段階 ガリラヤの大宣教

コメント：

の朗読では、イエスは自分が神であるという大胆な主張を続けました。

イエスは、自分が常に神として生き、父と完全に一体となって働いているという事実を確立した後（5.15-20）、次に、神だけが行える2つの「仕事」に対する主要な神の責任を自分が負っていると主張して、聴衆を驚かせました。

（1）すべての死者を生き返らせ、彼らに最後の審判を下し、

（2）彼を信じるすべての人に永遠の命を与える。この二つの「働き」は、イエスが以前に安息日に「働く」資格が神から与えられていると主張したことの無意味さを証明した。

イエスは最初、歴史上のすべての死者を一瞬にして蘇らせ、その後彼らに永遠の最後の審判を下す神の力を持っていると主張しました（5.21-23, 25, 27-29）。旧約聖書全体を通して、絶対的な審判を下すのに十分な正義と力を持つのは神だけであると考えられています。

イエスが、神の裁きはすべて三位一体によって自分に委ねられていると言ったとき、彼は、通常、そのようなことをする人は狂人だとみなされる主張をしていた。正気な人間なら、そのような責任を望まないだろうし、ましてや自分に責任があるとは思わないだろう。

さらに、イエスはアダム以来の世界中の死者全員を蘇らせる力を持っていると言いました。これもまた非常識な主張です。復活と最後の審判の組み合わせは、この地球上でこれまでになされた最も大胆な主張の1つです。これを見逃さないでください。

この朗読（5.21、24、26）で、イエスはまた、永遠の命（神自身の命の質）を、まばたきするほどの苦労もなく、与えたい人に与える神聖な力を持っているという主張を繰り返しました。人間は誰かの将来の命について何も保証できません！永遠に続く命を保証できるのは神だけです。これは、人類の歴史でこれまでに約束されたこととはまったく異なるイエスの主張です…その規模の大きさはほとんど理解できません。

イエスは永遠の命を与える力を持っていたので、イエスを信じるすべての人に永遠の命を与えると約束することもできました。イエスがこれまでの宣教活動の中でこの約束を繰り返してきたことを私たちは見てきました（ヨハネ3:15-16; 4:10）。イエスは神殿で、ずっと約束していたことを宣言していました。イエスを信じるすべての人に対するこの約束は、なんと力強い励ましと自信の源なのでしょう。このことを理解するために、24節をもう一度読んでください。

これらの発言は、イエスが、父が神であるというあらゆる意味で、自分が神であると確信していた（確信している）ことを確実にしています。自分が普通の人間であると信じている人は、このような主張をしません。「優れた宗教教師」や哲学者、道徳家も、このような主張をしません。なぜなら、それは単なる人間が語ったとしても真実ではないからです。本当に正気でない人、または聖書が語るあらゆる意味で本当に神である人だけが、これらの力があると主張するでしょう。これがまさにイエスが言おうとしていたことです。

25節でイエスは、人々が彼の神聖な声を「聞く」という表現に二重の意味を込めました。靈的に「死んだ」人々は、この人生で彼の言葉と約束を通して彼の声を「聞く」ことができ、今永遠の命の賜物を受け取ることができます。これは、福音が宣べ伝えられ、その結果人が信じるときに起こることです。肉体的に死んだ

第4段階 ガリラヤの大宣教

人々は、将来、最後の復活と審判の時に、彼が歴史上のすべての死者を一度に蘇らせるとき、彼の声を聞くでしょう。イエスは後に、同じようにすべての人々を蘇らせるという鮮明な証拠として、ラザロを墓から呼び出して死から蘇らせました。

肝心なのは、父が神として敬われているのと同じように、イエスも神として敬われるべきであるということです。なぜなら、イエスはすべての点で父と一体であり、神だからです。 「...すべての人が父を敬うのと同じように、子を敬うようになるためです。子を敬わない者は、子を遣わした父をも敬いません。」 5.23

応用：

イエスはこれらのことと語っただけでなく、自らを死から蘇らせることでその真実性を証明しました。イエスはすべての神の崇拝と最大限の畏敬の念に値する方です。イエスは神なのです。

イエスにあまり親しみすぎないように注意してください。イエスはまさに「罪人の友」ですが、驚くべきことに、イエスはまさに神なのです。

あなたはイエスにどの程度の敬意を払っていますか。あなたはイエスを神として、ありのままに崇めていますか。今日、具体的にどのような方法でイエスをさらに崇めることができますか。